

葛工!! ピンチ



令和元年 9月4日 発行

★皆さまのスマホのディスプレイに、親指と人差し指を乗せ、二本の指で押し広げるように、画面の一部を拡大することを、ピンチアウト (Pinchout) と呼びます。そこで葛工の最近の話題やトリビアを、ピンチアウトするようにお伝えしたい、そんな思いで「葛工!!ピンチ」と名付けました。「葛工がピンチ (危機)」なわけではありませんから、勘違いなさいませぬよう、ご用心ご用心。

a pinch of esprit

木尾さんが、やってきた!

木尾士目 (きおしもく)、日本の漫画家、本名は非公表。ペンネームは、本名の漢字をバラしたものだが、バラしすぎてそのままでは元に戻らない、と作品集のあとがきに出てくる。

どう見ても葛西工業がモデルとしか思えない、架空の端本工業高校が舞台となった『はしっこアンサンブル』(月刊『アフタヌーン』に掲載中)の作者、木尾さんは謎のひとである。それが8月某日、わざわざ葛西工業まで足を運んで、「葛工!!ピンチ」のインタビューを受けてくれました! いったいどんな方がいらっしゃるのだろう? ワクワクドキドキで当日を迎えた。いらっしゃいましたよ、講談社の編集部の方とご一緒に。ははあ、木尾さんて、こんな感じの方なんだ。「謎のひと」だから詳細はここで描写しないが、手の大きなひとだなあ、というのが第一印象でした。そして校長室でインタビューが始まりました。

Q (ピンチ編集部) : 工業高校を舞台に取り上げたのは、どうしてでしょう?

A (木尾さん) : あるとき男声合唱を見て、非常に感動したので、作品に取り上げようと思いました。それならば男子高を舞台にしても、よかったのだけど、男子がたくさんいて、女子もいることから、工業高校を選びました。

Q：『はっっこ』には、実際の葛西工業の風景が、あちらこちらに登場しますね。

↓ こんな感じです。どう見ても葛西工業としか思えない！



A：あの絵のなかには、実際の写真を加工して、画面に取り入れているものもあります。だけど教室の場面だけは、全部自分でトレスして描きます。だから教室の場面になると「大変だ！」と悲鳴をあげます（笑）。もっとも同じ場面だと、保存しておいて、くり返し使えることもあるんですよ。



↑ 机ばかり出てくるこんな教室シーンは、木尾先生泣かせ??

Q：いまどきは原稿を手で描いて、黒いところは墨汁をはみださないよう、慎重に塗る作業なんてないんですね。

A：PCのタブレットで描いています。黒く塗るところは、範囲を指定すれば、一瞬でパッと黒くできます。

Q：木尾さんは、どういうまんがに影響を受けましたか？

A：子供の時は『ドラえもん』、それから『少年ジャンプ』で連載していた『北斗の拳』や『キン肉マン』。あ…でも、いちばん影響を受けたのは、宮崎アニメです。

こんな感じで、なごやかなうちにインタビューは進んだのですが、そのうち木

尾さんは小さなメモを取り出して、逆にわれわれにインタビューを始めました。たとえば「建築科の一年生の実習で、危険をとまなうものは、どのようなのですか?」。いったいどういう展開を構想しているのかな?



そのあと体育館で軽音楽部のバンド演奏を見て、熱心に写真を撮ったり、顧問の先生に取材をなさっていました。「今まで5、6回は葛西工業へ取材に来ています。本当はもっと来なくちゃいけない。工業高校の空気を感じるのが、作品づくりのうえでとても大切です」とは木尾さんのコメント。どうぞいつでも、いらしてください!

同席していた建築科の教員から「実習服は安全のため、夏でも長袖なんですよ」という話を聞き、木尾さんは「夏服だと思って半袖で描いてしまいました」と慌てて、「直さなきゃ」とくりかえし言っていました。そのあと木尾さんから、タブレットに保存してある、実際の実習服を見せていただきました。本当だ。半袖だった。木尾さんまた「直さなきゃ」をくりかえす。それにしても見事な原稿、下書きのラフスケッチ、ネーム、貴重なものを見せていただきました。



木尾先生、先日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました! 文中ではつい親しみを込めて「木尾さん」と馴れ馴れしく表記したことを、お許してください。この先の『はしっこアンサンブル』の展開を、楽しみにしています。